



大門小だより

12月号

平成30年11月28日

大門大好き いい仲間 進んで学ぼう 元気な子

横浜市立大門小学校

知ってるつもり

副校長 佐々木 一高

風に葉を委ねる木々の冬支度が始まりました。本校の木々においても、葉を失った幹と枝だけの冬木立が目立ち始め、いかにも寒々しい冬景色となってきました。葉を落とすのは余分な消耗を抑えて冬を越すための準備。代わりに冬芽を用意して、じっと春の訪れを待ちます。

風といえば9月に発生した10年か20年に1度という「風台風」。珍しい現象とのおり、本校の東側に立つソメイヨシノは根元から倒れてフェンスにもたれかかり、西側のシダレヤナギは太い枝が折れ、大きな被害を受けました。更には風台風による塩害。その後の雨も少なく、葉から塩分が洗い流されず、葉が「脱水症状」を起こしてしまったとのこと。秋ならではの色づきを見せる前に枯れ落ちてしまった木々もあったことが残念でなりません。

私は小学生時代、新潟の海沿いのまちで育ち、塩害に悩まされるまちの人々の姿を間近に感じるがありました。一方で、海から10kmほども離れている大門小学校を含め、これほど広範囲で塩害の影響を受けたことを知り、「知ってるつもり」でいた自分に気付かされました。

NHK番組「チョコちゃんに叱られる！」が人気と聞きます。「知ってるつもりで知らないことが世の中にはたくさんある」ということがその理由の一つのようです。勉強臭さのない、ゆったりとした番組構成の中、5歳児という小さな女の子に問いかけられ、「ボーと生きてんじゃねえよ！」とのきつい言葉に、大人として焦りさえ感じます。一方で、チョコちゃんの言葉からは嫌みを感じず、素直な気持ちになれることも事実です。私も、風台風による塩害について知らないのかと、チョコちゃんに叱られそうです。

12月1日に『大門フェスティバル』が開催されます。各学級における総合的な学習や生活科の取組は、教科書や教室から離陸し、子どもたち自身が主体的に追究する内容が数多くあります。子どもたちにとって、学校はチャレンジの場であり、保護者や地域の皆様をお招きしての表現の場は、喜びと同時に緊張の場であることでしょう。また、今年度は新たにESD（持続可能な社会の担い手を育てる教育）の概念を取り入れ、SDGs（持続可能な開発目標【17】）の視点を各学級の取組に照らしながら活動を進めてきました。新しいことを行うのではなく、一つの出来事をきっかけに無自覚の自分を脱皮し、「自分ごととして考える」見方につながる芽を育みたいと考えています。



保護者や地域の皆様におかれましては、当日を迎えるまでに少しずつ成長を重ねてきた子ども、これからも持続して成長を続けていく子どもの姿を実感いただければ幸いです。多様な視点での受容が次の成長への励みにつながると考えます。「知ってるつもり」を忘れ、純粋な子どもの疑問に触れながら、ゆったりとした『大門フェスティバル』のひとつときが創れますよう、是非お力をお貸しください。